

伊丹市議会議員 **おおつる 求** の活動報告

大規模自然災害時に地域の避難所に入れる!?

想定避難者数にあった避難所整備を



居住人口と避難所面積のアンバランス

本市は、大規模自然災害対策を「伊丹市地域防災計画」で定めており、震度7直下型地震の際、避難者数を15,195名と想定(計算式は下部参照)。避難所は学校や共同利用施設等128施設など17,744人分(3㎡/人)のスペースがあり、市全体では「避難所は十分足りる」と見込んでいる。

避難所スペースが足りない地域も

ただ市内小学校区別で計算すると、避難所充足率の地域差が鮮明になった。主に南部の避難所が不足している傾向がある。(右表参照)

有岡小学校区では3人に1人しか校区内に避難できない一方、スポーツセンターや緑ヶ丘体育館がある地域の避難所には余裕がある状態。

市は補助避難所として公共施設開設や、スペースに余裕のある避難所へのバス移送などを想定するが、非常時の混乱の中、「自治会ごとのバス移動」は現実的とは思えない。

小学校区	想定避難者数	収容人数	充足率
有岡	947	305	32%
荻野	846	406	48%
南	1,392	700	50%
伊丹	1,586	825	52%
笹原	1,265	908	72%
鴻池	692	1,376	199%
瑞穂	841	2,453	292%

計算式での想定避難者数と収容人数一覧。
充足率が低い上位5つと、高い小学校区。

[あくまでイメージ 大津留作成]

想定避難者の計算方法

- ①8万世帯×全壊率10.6%
- ②震災時全壊家屋6,078戸は耐震化されたと想定、差引く。
- ③2.5人/世帯
→想定避難者数15,195人

あらゆる機会を活用し、環境整備を進めよう

現在、南小学校区にはファミリー層向け大規模マンション群が建設されており、今後充足率は大幅に下がる。

充足率が低い地域では、共同利用施設の統合再編や、学校の大規模改修の機会を活かし、想定避難者数に耐えうる環境整備が必要、と問題提起した。今後も働きかけを続けていく。

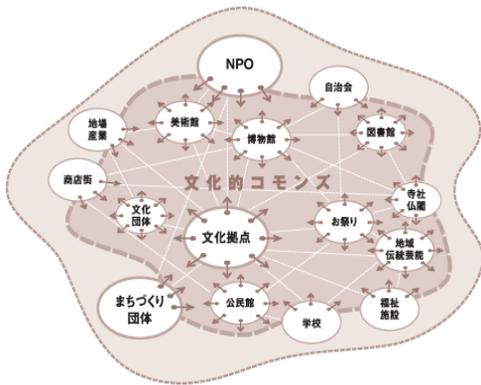
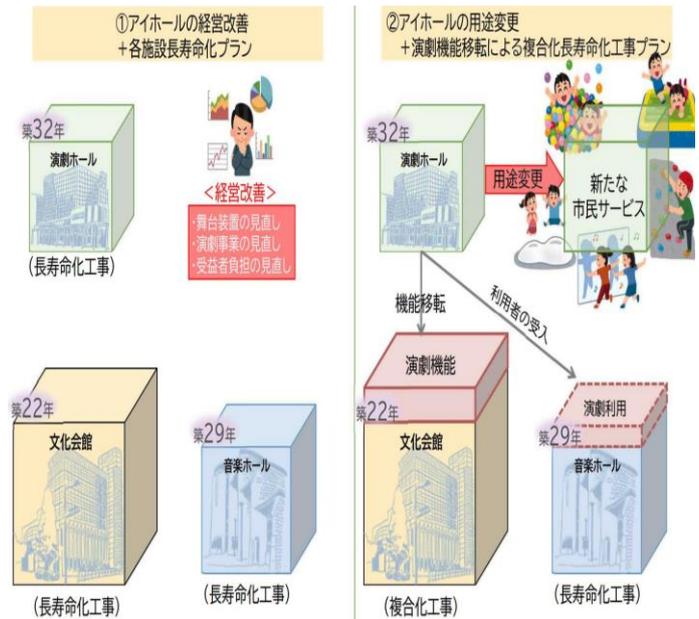
6月議会 質問報告

財政最優先で文化・芸術を 考える市の姿勢に危機感

アイホール(演劇ホール)問題が大詰めだ。
市は22年度から3年間、演劇事業の縮小、
大幅な人員・経費削減をしてアイホールを
運営する一方、いたみホール、アイフォニック
ホールを含め、今後のあり方を検討している。

選択肢は2つ。

- 3館とも長寿命化工事をする。
- アイホールの用途を演劇からクライミング等に変更して、演劇機能を他の2館に統合する。



市は効率化・有効活用など財政面に加え、文化振興の観点
から検討しており、今年度中に中間報告、来年度上半期には
最終報告するという。

財政最優先で文化を考える市の姿勢に危機感を抱く。
公立の文化施設には、文化的なつながりを求めて人々が
集まる拠点、「文化的コモンズ」の役割が期待されている。
その視点を忘れてないで検討をして欲しい、と要望した。

統合新病院建設へ本格着手

市立伊丹病院と近畿中央病院の統合新病院工事は、地元住民へ工事説明会を開催した後、5月GW
明けから工事が始まった。2026年度の開院、27年度のグランドオープンを目指す。

運用面の話し合いも進んでいる。両病院従事者でチームをつくり、運用計画や医療機器の選定、医療
情報システム検討に加え、人事評価制度や運用計画、人員配置計画などを断続的に続けている。

また、当初から関心の高い近畿中央病院跡地への民間病院誘致に向けたスケジュール案策定や、
近隣住民への説明会など、しっかりと進めて欲しい、と要望した。



6月議会 アレコレ

選挙後、初めての定例会だった6月議会。
新人議員も含め、全議員が一般質問。
その中から身近な話題をピックアップします。



教諭の時間外勤務実態

(23年4月)

	80時間超	100時間超
小学校	1.6%	0
中学校	43.7%	25.2%
高校	20.0%	11.4%

(市教委調べ)

中学教諭の25%が残業100時間越え

発症1ヶ月前に100時間超の時間外労働や、健康障害発症前の2~6ヶ月間で月平均80時間超の場合、健康障害と長時間労働の関連性が強い「過労死ライン」といわれる。

市内学校教諭でみると昨年度より減少したとはいえ、中学校教諭のほぼ半数が、「過労死ライン」に該当するのが現状。各学校での工夫も限界だ。教諭増など根本的な対策が急がれる。

近中が来年1月で分娩取り扱いを終了

昨年度の実績は、市立伊丹病院が330件、近畿中央病院が203件と、両病院あわせて533件だった。

周産期・小児専門の集中治療室のほか、感染症患者に対応可能な分娩室を整備する統合新病院では、産婦人科病床を39床整備することにより、約600件の分娩受け入れを想定している。

なお、近畿中央病院は来年1月末をもって分娩取り扱いを終了。今後、新たな分娩予約は、市立伊丹病院が受け入れをおこなう、という。

分娩の取り扱いを停止します
2023.06.07

長年に渡り職域と地域の産科医療を担ってまいりましたが、及ばざるを停止させていただきます。

たいへんご迷惑をおかけすることになり誠に申し訳ございません。詳しくは、[こちら](#)をご覧ください。

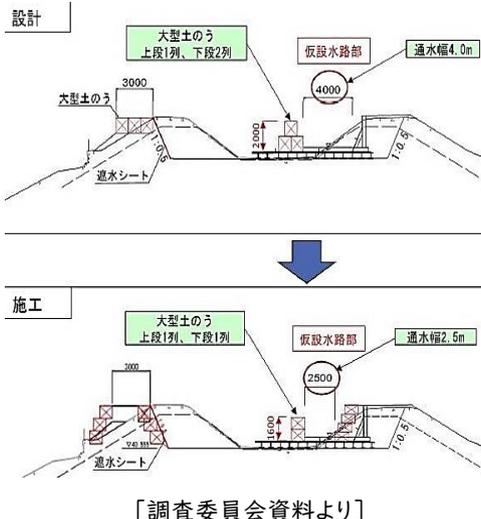
なお、2024年（令和6年）1月16日以降の分娩予定日の妊婦、ご安心ください。

公立学校共済組合近畿中央病院 病院長

[近畿中央病院 web]

天神川氾濫災害は人災か、設計通りでは無かった工事

5月8日未明、大雨による増水で、県が管轄する天神川河川工事箇所土のうが崩れ、荒牧6丁目付近に床上浸水2戸、床下浸水10戸の家屋被害をもたらした。



河川工事は市の荒牧トンネル拡幅工事と一体的に施工するため2020年7月に県と市が協定を締結。県が一括して工事をしていった。

6月8日開催の第1回「天神川氾濫災害調査委員会」は非公開のため、どんな議論が行われたのか分からないが、県の資料によると、大型土のうを高さ2m設置すべきところ実際は1.6mだったことや、河川断面の通水幅4mが2mと設計より狭くなっていたなどが確認できる。

今後は設計通りでは無かった理由や、その影響の有無等の検証がおこなわれ、秋頃に結論を出す、という。

